

令和元年度第3回伊賀市男女共同参画審議会 議事概要

【開催日時】令和2年3月24日（月）午後2時30分～

【開催場所】ハイトピア伊賀4階 ミーティングルーム

1 開 会

司 会 皆さんこんにちは。ただいまから、令和元年度第3回伊賀市男女共同参画審議会を開会いたします。

皆様には、年度末何かとお忙しいところまた、新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中、ご出席いただきありがとうございます。

本日の審議会の議事に入るまで進行役を努めさせていただきます人権政策課の上島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この審議会は、伊賀市情報公開条例第24条に基づき、会議の公開を行いますこととなっていますが、今回新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、一般のかたの傍聴を非公開とさせていただいています。審議会等の会議の公開に関する要綱第8条に基づく議事概要（会議記録）作成のため、録音をさせていただきますのでご了承いただきたいと存じます。発言の時は、マイクをお渡ししますので、必ずマイクを通してご発言ください。

本日は、全委員13名のうち、8名の委員の皆様方のご出席をいただいています。本日の審議会は、「伊賀市男女共同参画推進条例」に基づき運営していますが、半数を超えていますので、条例第14条第2項により、当審議会は成立していることをご報告します。 それでは、朴会長から挨拶を申し上げます。

（朴会長 あいさつ）

朴会長 座ったままで失礼いたします。改めまして、皆さんこんにちは。今、新型コロナウイルスが、本当に大変で、早く終息できないかと思っています。今日は、マスクを着けたまま進めていきたいと思っておりますので、お聞き苦しい点などあるかもしれませんがご了承ください。

今日は、今まで意識調査を進めていた部分での報告、そして次の第4次男女共同参画基本計画をどのように進めていくかということで、できるだけ早く終わりたいのですが、少し時間がかかるかもしれません。皆様のご協力の下、できるだけ早く終わりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

司 会 ありがとうございます。それでは、伊賀市人権生活環境部長田中から、ごあいさつを申し上げます。

（人権生活環境部長 あいさつ）

田中部長 失礼いたします。人権生活環境部長の田中でございます。

審議会委員の皆様には、公務などで大変お忙しい中、また、先ほどから話しておりますコロナウイルスで大変な状況で、なかなかお集まりにくい状況の中、ご参加いただきありがとうございます。

平素は、市の人権政策の推進全般にわたり、とりわけ男女共同参画推進に関して、委員の皆様のご理解、ご支援を頂いていることに対し、この場をお借りし、お礼申し上げます。

第4次男女共同参画基本計画を令和2年度に策定したいと考えておりますので、ぜひ今日、市民の意識調査につきまして、一定のご審議をいただきたいと思ひ審議会を開催させていただきました。

昨年度2018年の、世界経済フォーラムが公表しているジェンダーギャップ指数では、149か国中110位で、特に「政治」と「経済」分野では、前より悪くなっている状況でございます。そういった中で、職場や家庭におけます、女性に対する様々な制約や性別役割分担意識がまだまだ残されている中で、男性も女性も介護や育児に対する時間がなかなか取れないとか、自分らしい生き方がなかなかできないという部分がございます。こういうことを少しでも解消し、男女共同参画を進めるということを目指させていただきます。それから人権的な意味では、女性差別の解消、男性も女性も自分らしい生き方を阻害されているという部分では、人権の尊重ができていないのかということがございます。こういった視点をもちまして、第4次男女共同参画基本計画を進めさせていただきたいと思ひますので、よろしく願いいたします。

司 会 それでは、始めます前に資料のご確認をお願いいたします。

～資料確認～

司 会 それでは伊賀市男女共同参画推進条例第14条の規定により、朴会長に会議の議長をお願いいたします。よろしく願いいたします。

朴会長 はい。今日の審議につきましては、そちら（事務局）からの報告事項となっておりますので、本格的な審議に関しては令和2年度に入ってからになるかと思ひます。ですので、今日は事務局からの説明が多くなるかと思ひます。まず、事項書の3報告事項（1）男女共同参画に関する意識調査について、説明をいただいた後に委員の皆様から質問等を受けたまわります。よろしく願いいたします。

司会 それでは説明させていただきます。
資料1 市民の意識調査をご覧ください。

～ 資料1 市民の意識調査の結果を読み上げ ～

朴会長 ありがとうございます。伊賀市については、男女共同参画について近隣市町からは、結構進んでいるという話を聞いていました。「伊賀市男女共同参画推進条例」とか「都市宣言」とか、半数近くの人が「知らない」と回答しているのは、ちょっとショックなのですが、そういうものなのですか。

事務局 地区別懇談会等で、資料を配布しながら説明等はさせていただいているのですが、地区別懇談会自体、参加者は男性が多いということも含めまして、周知されていないという現実が、私もショックでした。まだまだもっと、啓発していかなければいけないと思っています。

朴会長 はい。では、他の委員の皆様にも、質問等ございましたら、うけたまわります。委員の皆様、いかがでしょうか。感想でもなんでもけっこうです。

朴会長 ではまず、私から1つ…。さっき申し上げたことと関係しているのですが、「女性活躍」がいろいろ言われている中で、「ここがちょっとわからない」というようなことも含めて、周知に仕方について教えてください。ネットなんかは高齢者の方はちょっと難しい場合、例えば、「基本計画を作成しました」、「こういうのをやりました」とか。私が住んでいる津市では、1ヶ月に1回くらい、印刷されたものが回ってくるのですが、伊賀市でもそういった紙ベースのものはありますか。

事務局 はい。ただ、月1回ではなく、年に4回発行しているものがございます。編集につきましては、伊賀市ネットワーク会議というものに加入している団体をお願いしているものでございます。全戸配布ではなく、各戸回覧というものでございますので、全体に周知しきれていない部分もございます。ホームページ等にも載せさせていただいておりますが。

朴会長 例えば1年かけて、「令和3年にはこういうものを策定しました」となった時には、市長の定例記者会見みたいなものがあるかと思うのですが、「やりましたよ」ということを、短い時間でも構いませんので、ちょっと考えていただけるとありがたいです。

事務局 どの計画でも、市民の皆さんには、市長の方から報告はさせていただいております。この9月議会でしたか…にも、市長の方から「男女共同参画の意識調査をします」ということをご協力のお願いも含めてさせていただいております。

部長 現在の3次計画の時も、今の市長でしたが、この中の重点項目について、記者に説明をしていました。こういうことはやっているのですが、なかなか全市民の方にどう

関心を持ってもらうのかは、難しいところではあります。広報は一部しかスペースがないもので、難しいところですね。

朴会長 三重県は、ケーブルテレビが流行っているというか、盛んになっているので、ある一定期間、新しいニュースとして情報を流していきませんか。少しの時間でもいいので、「詳しい情報についてはこちらに問い合わせてください」という形ででも。
けっこう（啓発等）頑張っていますよね、課長さん。それが、40%以上の方が「知らない」というのは、ちょっとむなしくなってきます。

委員 それぞれの場で女性が頑張っている、そういうところもたくさんあると思います。なかなかそれが、全体のものになっていかなかったり、一部の活動で終わっていたりするんで、その活動が横に広がっていく、そして全体に影響していくというような活動をしていくと、もっと皆のものになっていくのかなと思うのですが、他の女性の方、いかがでしょうか。

委員 同じような意見を持たせていただいています。社会的な部分、会社とか事業所内というのは、国とかの要請もあって、そこに対するパーセンテージとか数字とか、明確にされている部分がありますので、企業内での男女差というものは、ずいぶん埋められてきたであろうと。ここ何年もかけてということでは、効果が出てきてるのではないかと思います。それがなぜか、家庭や地域に持ち帰ったときに、同じ感覚でできないのだろうということが、この男女共同参画の一番の大きな問題ではないのかなと、この数字を見て、改めて思わせていただきました。私も結婚してから、子育てをしながらですけど、辞めずにずっと仕事をしてきています。ですが、それだけを見て、私だけを見ていると、社会にも一定の活動にも参加し、世の中に出て行っていると見受けられますが、実際、家事であったり子育てを助けてもらっているのは、義理の母でありまして、やっぱりその部分は、主人でもなく、義父でもなく、両方支援が全くないというわけではありませんが、重きを置かれているのは、母というのは背景にあります。ですので、「社会に出る」ということはさせていただいていますが、まだまだ自分の家の問題も大きくある、それがまあ、全体的の問題と一緒にだというふうに感じさせていただきました。ですので、地域や家庭ではモラルであったり考え方というもの大きく、その数字的な目標があったりペナルティがあったりするわけではないので、意識というものが本当に大きいなと感じさせていただきました。できたら、家庭が一番最後になってしまうかもしれませんが、住民自治のところで、もっともっと女性の活躍を刷り込んでいただいて、それを家庭に持って帰れるような順番にはなるかと思うのですが、そういう機会が増えるといいなと思いました。

委員 すみません。今のお話の地域の面で、やっぱり役職のついている女性の方は、10.8ということがわかりました。その前に地域に参加しているところで、半数以上の若い

メンバーが参加できないというところで、お仕事の面等あると思いますが、地域に関わるというのは、小さい時からの福祉会とか児童会とか、そういうところに関わっていきながら地域の人たちと触れ合って、その中で子育てが落ち着いた時に、住民自治等に関わっていただけた流れとか…、私の地域でも、福祉は、やっていただいているんですが、そこで終わってしまっていると、そういうところが一点問題ではないかと思えます。

もう1つ、問13のあなたは将来、主に誰に介護をしてほしいと思えますか、の質問で、男性の「妻に介護してほしい」という割合が42.4%。そう思うなら、なぜもっと家庭のことをしないのか。すごくこのデータはおもしろいなと思えました。やはり男性は奥さんに介護をしてほしいんだなと…。先ほどもお話にありましたが、家庭の中での男女共同参画ということでは、お仕事もあって忙しいということで、若い人たちの中ではもう早くから、男女共同というか、できる人がやろうということで、ほとんどの家庭で協力しあっている、しかし年齢層があがってくると、今までの考え方というものもあって、「男は仕事、女は家庭・育児・介護」という概念が抜けていない。男女共同参画センターで「こんな男がいてもいいじゃないか塾」という講座を、3年間していただけていました。私の主人も去年定年しまして、意識を変えてもらおうと思まして、この講座に参加させてもらいました。いろんな方の考え方、今の社会のあり方、家庭のあり方というものを聞きながら、少しですけれど、認識が変わってきました、正直、私、実は年末に左手首を骨折しまして、2ヶ月ギブスをはめていたんですけれど、初めて洗い物をしてくれました。料理も左手で押さえることができないので、包丁を持って料理もしてくれました。ちょうど「こんな男がいてもいいじゃないか塾」の中で料理も参加させていただいて…。少し忙しい日がありまして、私が帰ってきたら、洗い物をしてくれてあったんですね。これから先、子育てが終わり、定年を迎え、夫婦でやっていく中で、共々にやっていこうという考え方を、この市の講座に参加させていただいて、少し学んでくれたんじゃないかなと思えました。この講座に関しては今年度で終わりと聞いています。(講座に)なかなか人が集まらないということも聞いていますが、もっと意識を変えていかなければ、なかなか共々にというのは厳しいと思えますし、女性側の積極性と男性側の意識改革を着実にしていくことが大事ではないかと思えます。

委員　この調査を見せていただいて、2014年から2019年の5年間で、あまり変わっていないということ、「そんなに意識が変わってなかったのか」と驚きました。その中でも学校とかそういうところでの意識は、やはり若い人はどんどん変わってきている、しかし地域とか、社会面においてはまだまだ変わっていない。先ほどもおっしゃっていただけていましたが、私の主人くらいの年代になりますと、なかなか意識改革というのは難しいとは思えます。おとこの料理教室など、市の主催でいろいろしていただいて、でも参加する人が少ない、ということは、伊賀市全体で男性の方にまだまだ意識がいきわたっていないのだらうと思えます。男女共同参画ネットワーク会議でも、

フォーラムとか開催して、参加をお願いしているところですが、なかなか参加者が集まらない、ということはまだまだ意識が足りないのではないかと思います。その中でやはり興味のある講師の先生とか興味のある話題になったときには、参加の人数もたくさんになってきますし、男性の方の参加も最近増えてきました。ネットワーク会議の方でも、男性が参加していただくようになって、役員さんにもなっていていきますので、今までは、そういった場に男性の方が来ていただくことがなかったんですが、これからはどんどんと男性にも参加していただいて、せっかくこのような意識調査をしていただいていますので、この結果をもっと市民全体の目に触れるように流してもらえると、もっと市民一人一人に浸透していくのではないかと思います。そうすることで、女性も男性も意識が変わっていくのではないかと思います。

朴会長 おっしゃる通りだと思います。市から出している情報紙が年に4回ということで、ページ制限等もあるでしょうから、すべて内容を掲載するというは無理だとしても、然るべき時に特集という形で考えると、こんな調査をやりましたとか、こんな計画をしていますとか…。また、そういうことももちろん大事ですが、このコロナウイルスが落ち着きましたら、小規模でもいいので、皆さん一致団結して、伊賀市はこういうところを目指して取り組んでいますというような語れる会を開催しても面白いかもかもしれませんね。

私としては、911人、45%、「知らない」と言っている方が多い割には、半数近くの方が答えてくれているというのは、この矛盾をどう考えたらいいのか、というときに、この45%の半数の20%の位の人を「知らない」から「知っている」に持ってくると、あっという間に60・70%になるとと思いますので、ちょっと忙しいかもしれませんが、その作戦でやっていきたいと思います。

それから、先ほどもお話にあがりましたが、将来の介護を考えると、女性は施設とかサービスとかを考えますが、男性の場合は奥様が一番安心なんではないかな…。

委員 そうですね…。うちも…実は、頭ではわかっていますが、家に帰ったら“下宿屋のおばちゃん”といつも言ってるのですが、何でもやってくれますので、介護とかになりましたら、やっぱり妻を頼りたいと思っています。私の場合はですが、性格が非常にルーズなもので、言われればやるんです。言われれば…。いつもお風呂は私がラストなので、風呂洗いは私なんです。そういうふうに決まっているんです。ですが、掃除でもなんでも、先ほども話がありましたが、食事の後片づけなんかは、私は食べてらその辺りでごろんとしています、「ちょっとやってよ」と言われればやりますが、言われなければ一切やらない…。だからきつと、甘えてるんですね、たぶん。自分で思っています。頭ではわかっているのですが、行動に移せないという…。

朴会長 それは、シャイ？ 恥ずかしい？ やらなくて済めば、それでいいわという…。

委員 ああ、はい、そうです。できたらやりたくない…。まあでもほんとに、妻は寝るのが早いのです、21時半くらいに寝るんです。私はいつも帰ってくるのが遅いものですから、12時半から1時ごろにお風呂に入って、その後必ず風呂洗いをやるんです。それだけは大きな顔して「やってます」と言えるんです。そういうふうなところの“give-and-take”だとは思いますが、先ほどの回答としましては、男はやっぱり妻に甘えているという部分があります。最後はやはり、妻に見てほしいなという…。

朴会長 ちょっと言ってもらえませんか？普段は甘えてるんだよと。でも「やってね」とか「一緒にやろう」と言われたら、ちゃんとやるんだよと。男性側の意見としてみんなに…。

委員 いえいえいえ、そんな。あの、私今ちょっと思っていてまして、私みたいなもう還暦を過ぎた人間が、この統計を見ていると、やっぱり若い人の方が男女共同参画に対する意識が高いですから、この審議会もこんなことをいうのは失礼ですが、皆さん年齢層が高いので、30代40代の方をもっと入れるべきではないかと思えます。

私も昔の古い人間ですので、やはりどこかに「男は仕事、女は家事・育児・介護」という考え方がありますので、あんまり（私の意見は）参考にはならないなと思っていまのお話を聞いていたんですけれど。

朴会長 なります。なります。100歳の時代なので、なります。

委員 そうですか。

朴会長 すべて若い人というのは、私はちょっと…。シニアの人の知恵と若い人の考え方がうまく混ぜることができるなら、もう少し若い人も…、あるいはオブザーバーでもいいし、何かでお願いしてこれからも頑張っていきましょう。

委員 そうですね。いつも家で“下宿屋のおばちゃん”という怒られるんですが、きっと若い人には、そういう考えてないと思うんです。私の学生時代は、下宿屋のおばちゃんがいる、なんでもやってくれていたの、ついつい言ってしまいます。学生の時はまかない付きでしたので。家でそういうと「誰がおばちゃんや！」と怒られますが…。すみません。しょうもない話で。

朴会長 貴重なお話、ありがとうございます。

委員 いやいや、恥ずかしい話で…。

朴会長 では、やらされれば、やれることで。

委員　　そうですね。やってと言われたらやります。ノーとは言わないです。

朴会長　　やって、やって！とお願いして、ぜひ協力してもらいましょう。ありがとうございます。これだけの調査をしていますので、全部すべてということは難しいと思いますが、この中で伊賀市の特徴というか、国とか県とかに比べて良くも悪くも、伊賀市はこんなですよというところを、簡単でいいですので調べてもらって発信していただければいいですね。

　　ちょっと教えていただきたいのですが、今日の審議会で「市民」「市職員」「事業所」全部やっていきますか？それとも「市民」の意識調査を徹底的にやって、あとは、資料はここにありますので、後ほどゆっくり見てもらって、事業所等につきましては、ダイジェスト版で説明していただくようにしますか？どういう予定で行きますか？

事務局　　当初の予定では、全部説明させていただくつもりでしたが、時間の都合もありますので簡単に…。

朴会長　　そうですか。

事務局　　市職員調査につきましては、簡単に説明させていただきますと、市民意識調査より高い数字が出ておりますので、そこを目標にして、第4次の計画をやっていこうかなと思っております。市職員調査につきましては、目を通していただいて。冊子にして、皆さんにお配りするのには、市民意識調査と事業所調査のみにさせていただきますつもりです。市職員調査につきましては、職員共有という中で、実態を理解してもらおうと思っております。

　　ですので、事業所の分を説明させていただきますでしょうか。

朴会長　　そうですね。ではそうしましょう。

司会　　では、机に配布させていただきました資料2をご覧ください。

～ 資料2 市内事業所意識調査の結果を読み上げ ～

朴会長　　ありがとうございました。委員の皆様、先ほどと同じように質問等があればお願いします。

　　では、私から一点、回収率が71.4%と高いのですが、以前の調査もこれくらいあったのでしょうか。

事務局　　事業所調査は今回が初めてです。回収率の高さは、毎年人権啓発という形の中で、職員が1ヶ月かけて280社に人権企業訪問を実施しています。その聞き取りの中で、

今回男女共同参画の意識調査について協力してください、とお願いをしました。

朴会長 製造業が多いというのは、伊賀の特徴ですか？

事務局 そうですね、はい。

朴会長 では、ちょっと課題も簡単に紹介していただけますか。

事務局 課題については、大きき3つの視点でまとめています。
～P92 課題の読み上げ～

朴会長 ありがとうございます。ここに出席の委員さんの中で、会社にお勤めの委員さん、いかがでしょうか。

委員 女性管理職が少ない理由というのは、弊社の場合、女性従業員の占める割合は48%です。できるだけ女性を採用していこうと、まあ、業種柄、薬品の製造とかになりますと細かい仕事が多いものですから、開発にしてもそうですが、女性の技術者の方がけっこう多いということもあって、必然的にそういった割合になっているんですが。感じとして、自分が感じていることですが、男性並みというか、男性以上に仕事をしたいという女性が非常に増えてきて、そういう研修とかセミナーとか、上司の方から“どうや？”と言うのではなく、皆さん手を挙げて、女性が手を挙げて行くと。では男性はどうかというと、機会は均等に与えてはいるんですが、どうしても男性の方が尻込みをしてしまって、なかなか手を挙げられないという…まあ、弊社では散見されます。女性は、必要な知識とか経験とか判断力とか、そういったものを自分で身につけたいという、欲求と言いますか、そういうものを感じます。仕事の面などで、“男性に頼んだ方がいいかな、女性には難しいかな”という我々の判断で、男性にだけ話を持っていくと、“私たちには、無理なのか”とすごい怒られるわけです。私はストレートに言われたんですけど、私の言葉の端々に、女性にはできないと思っているのがすごくわかる、それはどういう見なのか、ということを書いてきた方もいました。私のいる総務だけではなく、製造業にしてもそういう考えが進んできています。でも、かといって管理職にはなりたくない。仕事に必要な知識等を身につけて、男性よりも能力は身につけたいけど、でも心の底では、結婚して子どもを産んで…ということをしごく思っている。逆に男性は、生殖機能を奪われた感じですが、どちらかということ、中性化してしまって。彼らも結婚したいのではないかと思って聞いてみると、そうではなく“いや、一人でやっていって、それでいいんです”というような答えが返ってきて、男性と女性が逆転してしまっているというふうな感じになりつつあります。我々の時代というのは、根性論で叩かれてきた人間というのは、男性がギラギラしてて、女性は、短大を出て就職後、3年ほど勤めたら寿退社というのが多かったのですが、

今はそうではなく、逆に本当は女性が男性以上に仕事をしたいんだけど、心の底では結婚したいという気持ちもありながら、でも婚期を逃してずると…みたいになってしまう。でも本当は結婚もして幸せになりたいという気持ちはあるみたいです。男性は、最初は仕事を頑張って、役職に就いてというような上層思考がたぶんあったと思うんですが、女性の方が強くなってしまったために、意欲をそがれてしまいまして、自分の仕事をやっていればそれでいい、上層思考も徐々に薄れてきて、希望もあまり持っていないと。弊社では、年に2回ほど面談をするのですが、そういう話をちょっと聞きまして、あれっ？と思っています。今、女性管理職が少ないという結果に、私もわからないですが、社員の面談を聞いていますと、管理職として責任を持ってしまくと、結婚して子育てとなった時に、おそらく、責任を言われる、それ以上の仕事を要求される、というようなことを考えるのかなど思ったりしています。これは、たぶん都会とはちょっと違うかもしれません。都会のキャリアウーマンとは違って、やはり伊賀市特有の、どちらかというとその小金持ちというか、仕事には打ち込める、でも女の幸せもつかみたいという、仕事オンリーでキャリアウーマンとしてやっているところまでは、なかなか踏み出せないのかなど。もちろん企業側としても、それを強制させようとかそんな気持ちはないんですけど。ただ、反対に男性が頼りなくなってきたら、最近の若い人たちの傾向がそのように出てきているように感じます。

朴会長 これ、大変貴重なお話を伺いました。女性にやる気はあるし、能力もあるし、でも管理職となったときには、それはちょっといかがなものかとなると…。

委 員 まあ、そうですね。

朴会長 結婚もできて仕事もできて、管理職にも出世できると、そういういろんな環境が整ってくれば大丈夫でしょうかね。

委 員 えーとですね、今弊社では、育児休業・産休を取っている女性が7人いるんですけど、たぶん、その子どもさんが高校卒業するくらいになってくると、そういう野心みたいなものが、また再燃してくるかもしれないです。現に1人だけいたんです。全部子育ても終わって、部長までなられた方が女性でいらっしゃいました。今は、まだ30代半ばとかの年齢ですので、子育て真っ最中ですから、先々どうなるかはわかりませんが。今は、そういう状況です。

朴会長 ありがとうございます。その他、皆さんいかがでしょうか。

委 員 失礼します。私も今はもう現役をリタイアしていますが、まさに管理職もさせていただいて、子育てをしながら自分なりにさせていただいたなあと、今委員さんのお話

を聞きながら、“ふんふん”と思っていたんですけど、やはり、女性でないとできないこと、出産。育児に関しても何にも勝る大きなお仕事だと思います。それは、もちろんその人の生活環境が、その核家族で生活されているのと、おじいちゃんやおばあちゃんがいらっしゃる中で、お仕事をしながらちょっと頑張ろうかというのでは、ちょっと考え方も矛盾があるんですけど、どちらにせよ、私の友人が、仕事はしろ、子育てはしろ、旦那の面倒は見ろ、家のことはしろと、“こんなのスーパーマンじゃないから私はできないわ”と。そこで、この部分はおばあちゃんにお願いをしよう、この部分のご主人にお願いしようとか、伊賀の女性は頑張り屋さんが多いですが、それは別に何も女性の怠け心ではないと。そんなふうに整理をしていくとか。やはりそこでポイっと置かれるのが、一番弱者の小さい子どもさんだと思うんですがね。そこで保育施設とかほんとに整っているということが、女性の管理職うんぬんはもちろん、管理職になりたくても希望するしないは、子どものこと等を想うときに、果たしてこの子をどこに預けるの？とか、朝は熱がなかったので預けたが、しばらくしたら熱が出たからと迎えに来るようにと連絡があったときに、職場の人に“迎えに行かせてほしい”ということが言いやすいか、とかが現実だと思うのですが、その辺りをいかに整備していくかが、管理職への希望をされている人もいると思いますが、自分の経験上、そのように感じます。寒暖差のある伊賀の地域で育っているせいか、強い心を持った女性が多いように感じますので、与えられたことは機会として受け止めて、頑張っていこうという気持ちを持たせるためには、やはり環境整備というものがとても大事ではないかと考えております。職場というのは、ある程度限られた中で動いていますから、“女のくせに”という言葉もほとんど出なくなった時代ですから、今こそ、受けて立っていただいて、能力のある人は地域にも出て貢献して、ただし、お子さんを育てるといふことに対しては、施策的なものでしっかり子育て支援をしていかないと、“保育園に預けられない”とか“学童に入れられない”とかそうなると、仕事の方がちょっと待ってねとなると思うんです。能力のある方はそれを伸ばしていただくと、企業にとっても力になっていくと思いますし、地域にとっても宝になっていくと思います。その辺りを一緒に、同じように考えていかないとちょっとしんどいのではと思います。

朴会長 ありがとうございます。ここの課題に出ているのはその通りで、伊賀市だけでなく全体のことかもしれません。今、2人の方から伊賀の強みと、どこの地域でも当てはまるようなことを課題にまとめていただいている部分で意見を伺いました。今回は見えてきているものを整理していただいて、それを施策的にどういうふうにしていくのかということ、これからの課題としてやっていきたいと思っています。

 時間も来ておりますので、もう1つ市の職員の部分について報告いただきまして、次に行きたいと思っております。よろしいでしょうか。お願いいたします。

司 会 では、簡単に報告させていただきます。

 ～資料3 市職員意識調査の概要を読み上げ～

司 会 これを1つ1つ説明すると、また1時間くらいかかってしまいますので、とりあえず、だいたいが市民の調査結果より高くなっています。今、話題にあがりました女性管理職の登用率についてですが、8ページをご覧ください。職名という問8のところです。係員級から部長級までありますが、見ていただくと女性の部長級は0人となっております。女性の次長級につきましても2.1%となっており、まだまだ女性の登用率は達成していないという状況にあるのではないかと思います。

 また、職員の地域への活動というなかで、30ページをご覧ください。「いずれも参加していない」が36.8%、次いで「自治会・住民自治協議会などの地域活動」が34.1%となっています。市民調査との比較では、「いずれも参加していない」について、市民の51.9%より、15.1ポイント低くなっています。「いずれも参加していない」の理由として33ページをご覧ください。市民調査の比較では、「人間関係がわずらわしい」というのが、職員は26.0%、市民が15.4%で、10.6ポイント高くなっています。人間関係が嫌だと思っている職員が非常に多いという結果に…。

 そのほかにつきましては、市民より職員の方が意識が高いという結果になっていますので、また見ておいていただいて、疑問点がございましたら、また答えさせていただきます。

朴会長 ありがとうございます。この資料は、私は大変重要な資料だと思っています。伊賀市民のみならずどこの市民も、何か困ったときには役所へと思っていて、役所は何らかの形でサービスをしていくということであるので、今日は時間の関係で説明は省いていただきましたが、後でじっくりと読んでいただきたいと思います。皆さん、今の課長の説明で、何か気づかれたこと等ありますでしょうか。

 あまりないようですので、では、ちょっと持って帰って、ゆっくりと家でお勉強させていただきますということにしましょうか。

 よろしいですか、お願いいたします。

 では、もう一つあります。(2)第4次伊賀市男女共同参画基本計画についてについて、お願いします。

司 会 それではすみません。資料4をご覧ください。第4次伊賀市男女共同参画基本計画策定方針ということで、平成28年1月に策定させていただきました「第3次伊賀市男女共同参画基本計画」を基本としつつ、男女共同参画社会形成をめぐる国・県の動きや、社会経済情勢の変化、また、これまで実施してきた施策の評価と検証を踏まえ、また、令和元年11月に実施しました男女共同参画に関する意識調査結果を計画に反映させ策定させていただきます。期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間を予定しております。この計画を令和2年度中に策定するものとし、そのスケジュールは別紙1になります。

 説明させていただきますと、3月の4段目が本日の審議会です。今後は諮問、骨子検討、男女共同参画ネットワーク会議での意見交換、庁内推進会議を経て、計画素案

の修正を重ね、10月令和2年度第3回審議会を開催する予定でございます。庁内の総合政策会議と市政運営会議で、10月にはほぼ完成させて、中間案として議会に説明させていただきたいと思っております。さらに、11月にパブリックコメントを募集し12月の月上旬に庁内の推進会議を、そして、第4回審議会をさせていただきまして、1月の総合施策会議を経て、2月に議員全員協議会にて報告した後、市政運営会議に報告する予定です。

計画策定の体制につきましては、別紙2のとおりです。次回の審議会で諮問をさせていただきたいですので、よろしくお願いいたします。また市民の意見を反映させるため、パブリックコメントを実施し、計画策定の市民参加に勤めさせていただきたいと思っております。以上の内容でございますが、本日頂きましたご意見等につきましても計画策定に反映させていただこうと思っております。以上でございます。

朴会長 ありがとうございます。今の説明について、皆さんからご意見等ございますか。では、2021年から2026年、まさに、SDGS持続可能な開発目標、今ちょうど男女共同参画基本計画を作っているの、ぜひとも伊賀市が先進的なところの部分を入れて、いいタイミングで、みんなの力でやっていけるように思っていますので、よろしくお願いいたします。

では、その他について何かありますでしょうか。

委員の皆様のご協力の下、すべて終わりました。ありがとうございます。このアンケート調査も、大変だったと思います。これからもよろしくお願いいたします。私の方からは議事進行はこれで終わらせていただきまして、事務局にお戻します。

事務局 本日は長時間のご審議、ありがとうございます。部長の方からお礼を申し上げます。

部長 長時間にわたりましてご審議ありがとうございました。伊賀市は男女共同参画の取り組みを一生懸命やっているという中で、おしゃっていただいたように、第4次では、よそではやってないけれど、伊賀市ではこういうことをやっているというようなことを、2、3挙げていきたいなというふうに、事務局でも思っています。ぜひ、ご意見等よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

(会議終了)